

まんまるママいわて流 ～人材確保のヒント～



代表
佐藤美代子

自己紹介

佐藤美代子



- 保有資格：助産師 看護師
- 岩手県医療局勤務
- H13年県立久慈病院
- H16年県立北上病院
- H18年矢島助産院（東京）
- H19年開業
- H21年助産院開設
- H23年まんまるママいわて設立
（前 助産師による復興支援まんまる）
- 母と子のサロン いずみ助産院院長
- まんまるママいわて代表

まんまるママいわてとは . . .

- 2011年東日本大震災をきっかけに立ち上がった、助産師とママが妊娠期から子育て期までつながる支援事業をメインに活動している任意団体。
妊婦・乳幼児を育てている女性たちの身体や心の専門家である助産師が、ママ達とつながることで、岩手全域のママ達が、少しでも不安が少なく楽しい、マタニティ・育児生活を送れるように、日々活動している。
- 被災地では、常勤助産師がいる市町村が1か所もなく、活動を継続していく中で、現地の助産師・保健師等の専門家が関わる機会が増え、地域に根差した母子支援を行うことができる。
- 岩手県内初となる『産前産後ケアハウスまんまるぽっと』を2016年10月にオープン!!

事業の目的及び事業の概要

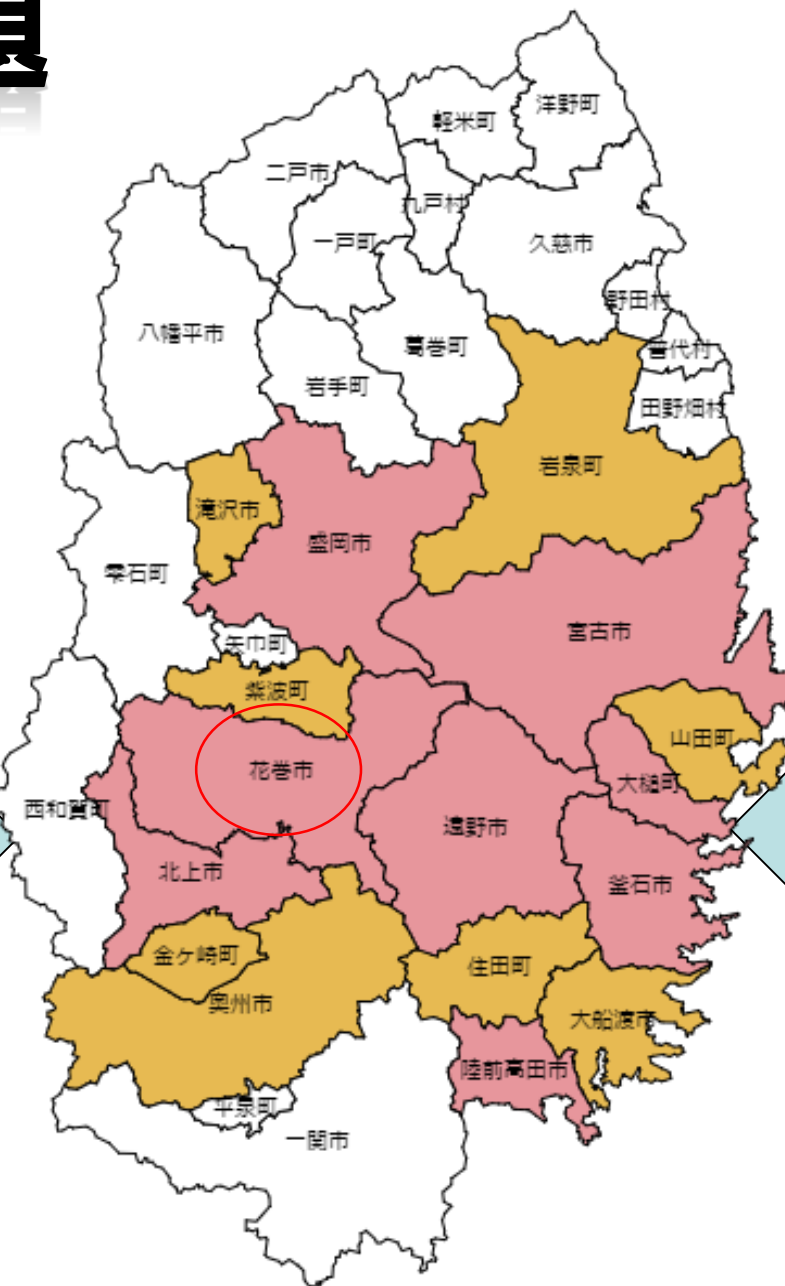
岩手県内の妊産婦や乳幼児を持つ母親・その家族・母子支援者等に対して、母子・家族支援に関する事業を行い、すべての人が一人ひとりの生と性、こころとからだを大切に、いのちを喜び支えあえる社会を目指すことを目的とする。

1. 産前産後ケア日帰りデイサービス・両親学級『まんまるぽっと』
2. 妊娠期から子育て期まで参加できる子育てサロンの開催 『まんまるサロン』
3. 子育て講座付子育てサロンの開催 『まんまるお月さま』
4. 妊婦・子連れでも参加できるヨガ教室の開催 『まんまるヨガ』
5. 妊婦・乳幼児をもつ母親を対象とした料理教室の実施『まんまるキッチン』
6. 相談員のスキルアップ研修会
7. 産前産後ケアシンポジウムの実施『産前産後ケア講演会と実践報告会』
8. 近隣地域の産前産後ケア実施施設視察事業

地域課題

今までの活動地域

ピンク:活動地域
黄色:参加者範囲



内陸

沿岸

岩手県

面積：

15,278.38km²



岩手県は関東4県より大きい！！

二戸医療圏
人口65000人



久慈医療圏
人口67042人



盛岡医療圏
人口489484人



宮古医療圏
人口99885人



中部地域
人口206724人



釜石医療圏
人口90904人



胆江医療圏
人口146572人



気仙医療圏
人口74885人



両磐医療圏
人口144541人

産科休診続出

産科休診病院一覧

- 平成13年 遠野病院
- 平成16年 千厩病院
- 平成16年 花巻厚生病院
- 平成17年 総合花巻病院
- 平成18年 江刺病院
- 平成19年 胆沢病院
- 平成19年 盛岡市立病院

院内助産分娩のみの病院

- 平成19年 釜石病院
- 平成20年 久慈病院



圧倒的な産科過疎
孤独な妊産婦

そして、2011年東日本大震災発災

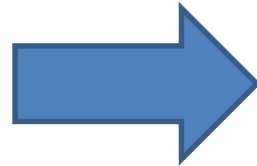
どんな問題があるのか

- 花巻市出生数600人/年 ・北上市出生数800人/年
- **核家族化**→夫のサポートが受けられない
- 里帰り→実母が働いている。農家などで日中一人で過ごしている人が増加→家族のサポートがうまく受けられない
- 入院日数の減少→**育児技術未習得**で退院する
- 産後の女性は、**緊張、ストレス、寝不足、育児の不慣れ、養生の必要性が分かっていない、「辛いしんどい」育児**

出生数の2～3割は、産後十分な援助が受けられておらず、順調なスタートを切っていない

現状

- 虐待
- 産後クライシス
- 離婚・シングル増加
- 貧困
- 育児放棄
- 自信のないママ
- 自信のない子供
- いじめ・ひきこもり



元気がない
地域・社会

一人一人が
大事じゃない
社会

妊娠期から子育て期まで参加できる子育てサロンの開催

『まんまるサロン』

目的

- ① 助産師が継続して相談・アドバイスをを行うことで、病院や定期健診だけではフォローしきれない悩みや不安を軽減すること
- ② 妊婦と母親が参加し助産師が間に入ることで母親同士が互いの子育てを共感・また学び合うこと
- ③ 妊婦・乳幼児をもつ母親が地域でつながることができる居場所づくりを行うこと

実施内容

- 専門職(助産師、保健師、栄養士等)による相談事業
- 妊娠期・分娩期・産褥期・子育て期の育児・健康相談(体重計を設置)
- 各地域の連携団体と協力し、託児コーナーを設置
- 栄養士考案のレシピ付きおやつと、ハーブティの提供
- ハンドマッサージコーナーを設置



ここなら安心して、地元の話や震災の話ができる。
(花巻 沿岸ママ&グランマお茶会)



家事もしないでお昼寝なんて、パパに悪いし...
自分は実家が近いからまだいい方。
つらいなんて言えないよ

復興関係で引っ越して来て、知らない人ばかりの
土地での子育てに不安があったけど、サロンに参加
するおかげで知り合いができた。
(釜石まんまるサロン)

まんまるサロンが好き！
自分たちで団体をつくり一緒に活動したい！
(陸前高田サロン)

被災地支援で沢山の人に助けってもらったから、
これ以上はわがまま言えないです



産前産後ケアハウスまんまるぽっと

➤2016年10月スタート

岩手県内初 「滞在型産後ケア デイサービス事業」

翌年、花巻市の委託事業へ



団体について

- 任意団体 まんまるママいわて（現在法人化準備中）
- 正会員36名
（うち助産師11名, 保健師1名, 栄養士1名, アロマセラピスト等数名）
- 賛助会員19名(県外多数)
- 年会費：正会員1,000円 賛助会員3,000円
- 運営方法：助成金7割 事業収入2割 寄付その他1割
- 震災支援の一環で、多数の中間支援団体より組織運営支援有り

組織体制

役員4名
代表 1名
副代表2名
会計2名

運営スタッフ 役員4名＋有志3名

産後ケアチーム
6名

食育チーム
4名

サロン現地チーム
釜石3名
大槌2名

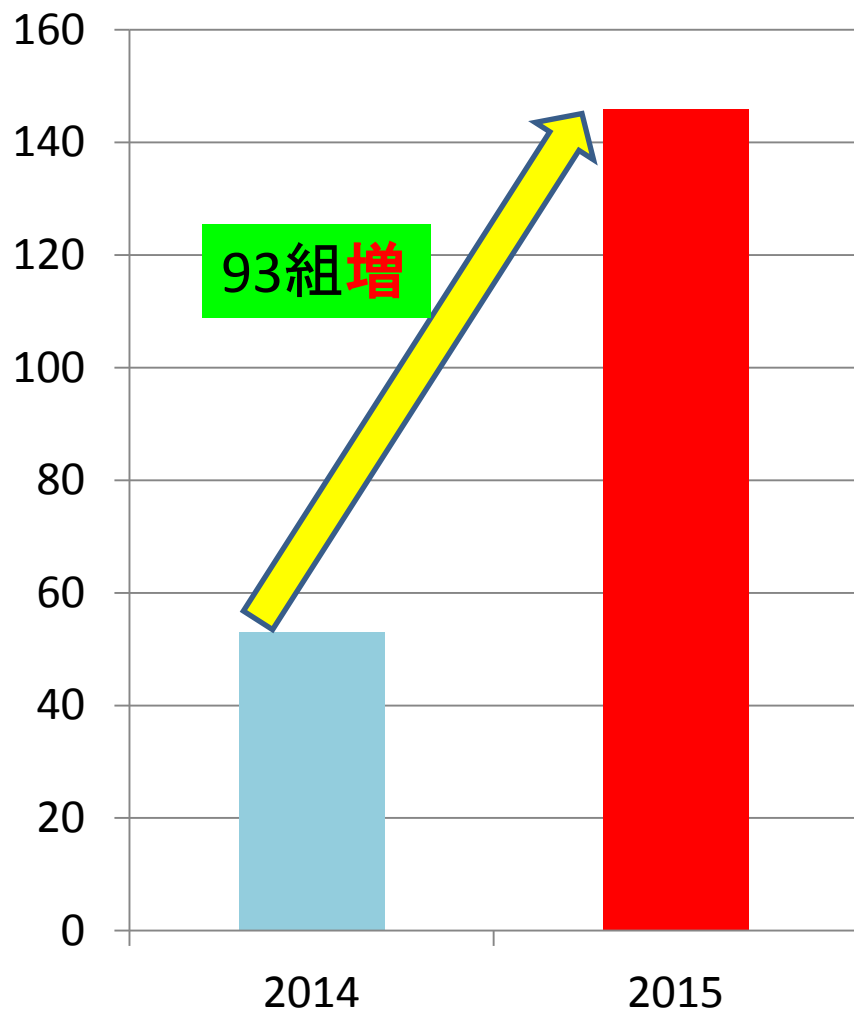
正会員 36名

賛助会員 19名

『助成金活用』3年継続による変化

- 行政との連携を図るために、陸前高田市、釜石市の保健師へ訪問を行った結果、その後保健師がサロンへ見学に来る機会を得られた
- **釜石市**では、参加者から2ヶ月に1度ではなく、毎月開催してほしいとの声が多く上がり、2016年度から毎月サロンを行い、2017年度からは釜石市の後援事業になった
- **陸前高田市**では、サロンに参加していた母親らが、ママサークルを立ち上げ活動をしている
- **宮古市**では、現地助産師がサロンに参加したことをきっかけに地域で開業し、次年度(2016年度)から開業助産師が中心となり、定期的にサロン活動を行うことになった
- **遠野市**では、参加者からスタッフとなった母親らが遠野支部となり、独立してサロンを継続していくため活発な活動を行っている
- 連携団体と協力し、託児スペースを設けることで参加した母親がゆっくり相談・ハンドトリートメントのケアを受けることが出来、アンケートでも満足度が高かった

親子ヨガ参加者数 前年度との比較

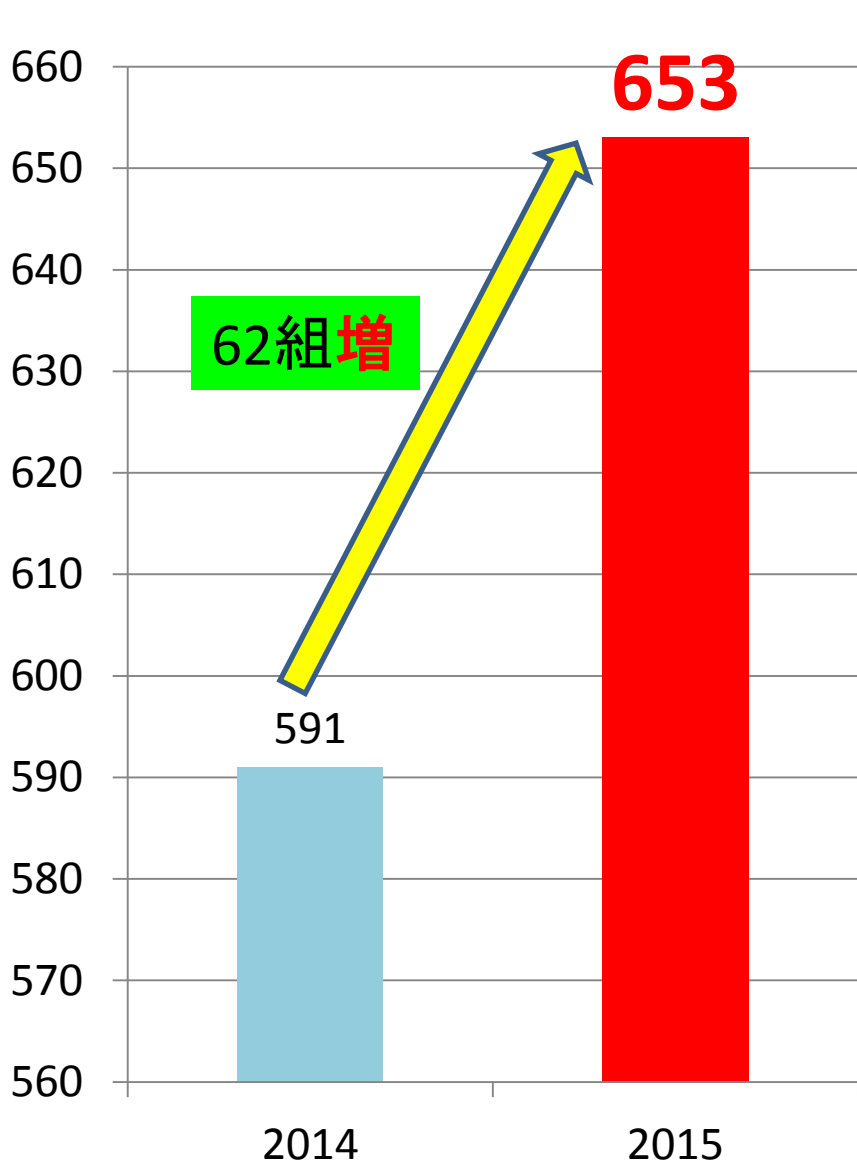


- 会場を花巻市と北上市の2会場へ
- 開催時間を午後から午前へ
⇒午後だと子どものお昼寝時間とかぶる...
- 予約制をやめ自由参加にした
- 価格の見直し 1500円→1000円

2014年度53名 ⇒ 2015年度**146組**

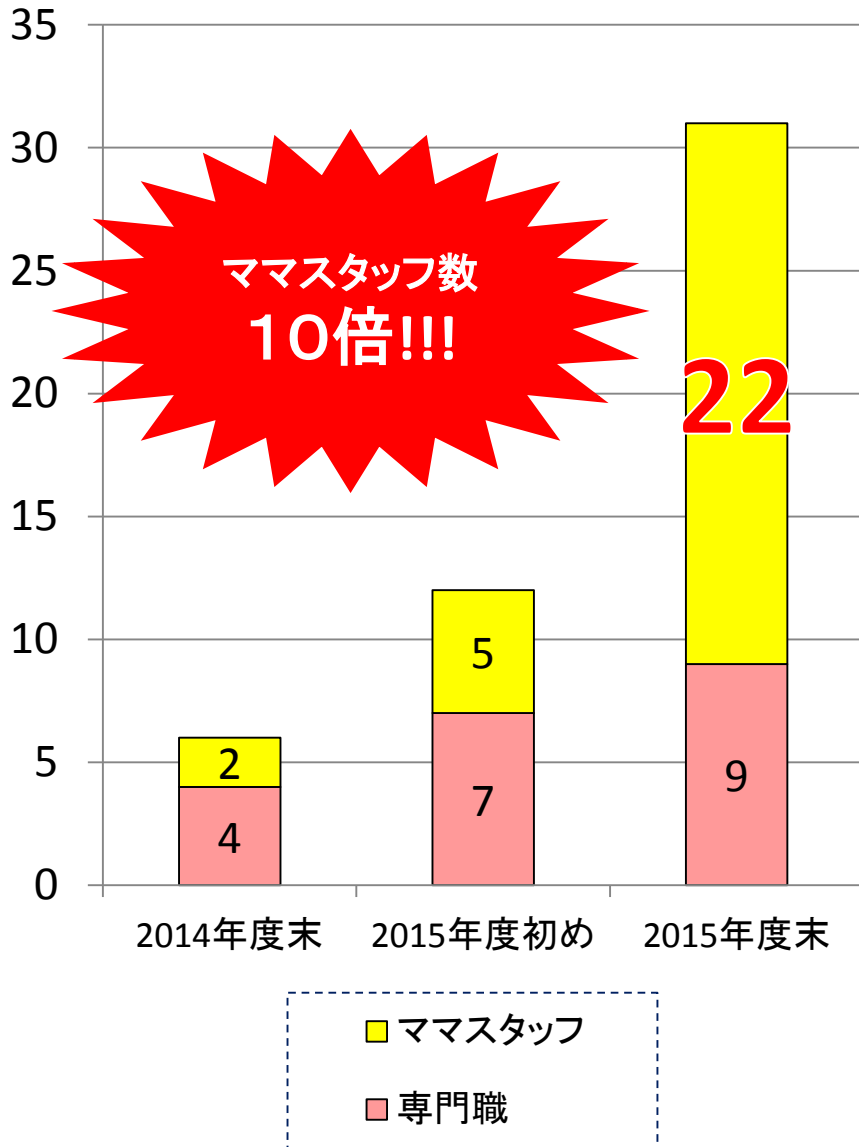
約3倍!!!

サロン参加者数の変化



- 里帰りにより地域をまたいでの参加者もあり
- 現地専門職スタッフによる口コミ
- 全国から被災地のママへクリスマスプレゼントが集まるクリスマス時期に合わせたサロン内容
- SNSによる団体ページの立ち上げ

スタッフ数の変化



2014年度末
正会員数 7名
専門職(助産師・保健師等) 4名
ママスタッフ 3名

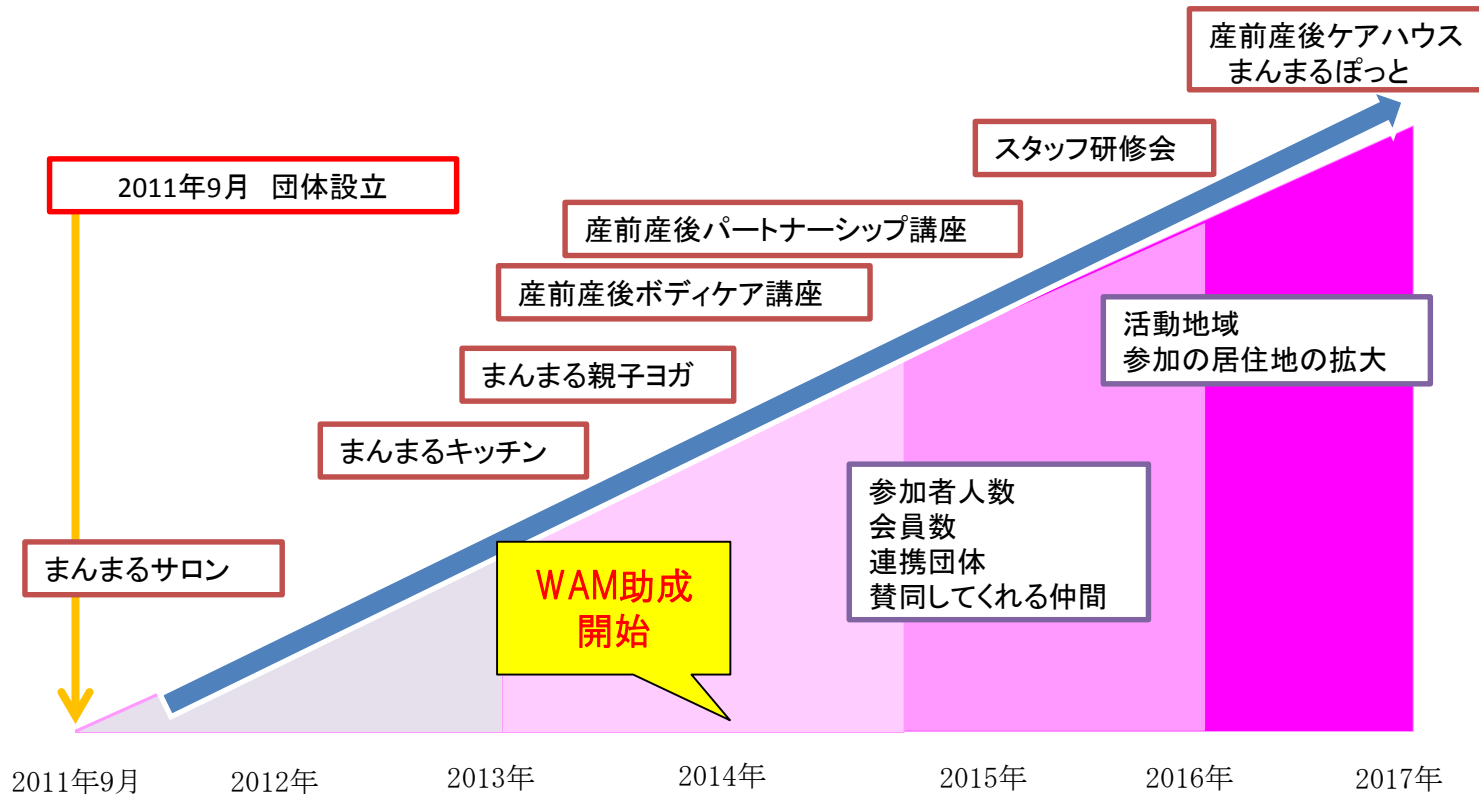


2015年度末
正会員数 31名
専門職(助産師・保健師等) 9名
ママスタッフ 22名

ママスタッフの役割

- サロンの会場予約・事前準備・サロンでのお茶出し・広報など
- 資格を活かし講師にもなってもらう
- イベント時の運営スタッフ
- お菓子作りボランティア

WAM助成を受けた三年間の成果



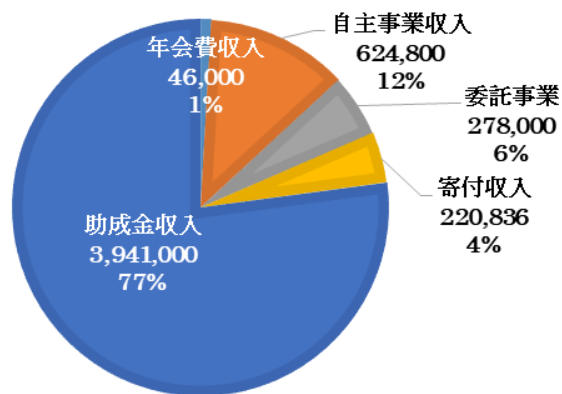
<成果>

- ① 平成26年度から助成を続けていただいたことにより、広域な県内を回るサロン活動を継続し参加人数・会員数・連携団体・賛同してくれる仲間が増え、活動地域の拡大に繋がった。
- ② 母親たちの声を大事に事業を進めてきたことで、ニーズに合わせた事業を立ち上げることが出来、認知度が広がっていった。
- ③ これまでやってきた活動が厚生労働省からの妊娠・出産包括支援制度と合致していることがわかり、行政の関心を得られ、来年度以降の事業委託に結びついた。
- ④ 産前産後ケア施設が、岩手県(特に沿岸被災地)で開設するためのスタートを切ることが出来た。

財源割合

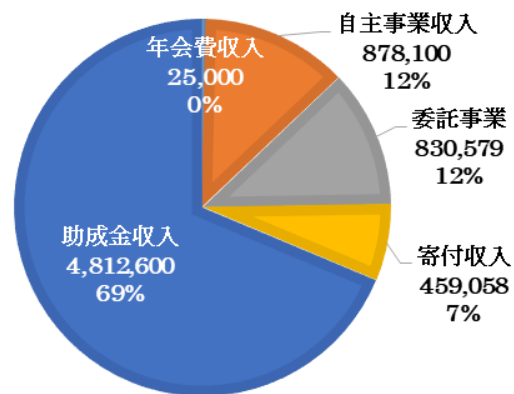
2015年度収入バランス

■ 年会費収入 ■ 自主事業収入 ■ 委託事業 ■ 寄付収入 ■ 助成金収入



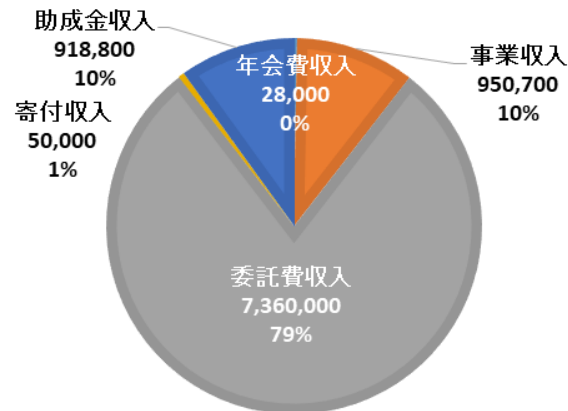
2016年度収入バランス

■ 年会費収入 ■ 自主事業収入 ■ 委託事業 ■ 寄付収入 ■ 助成金収入



2017年度収入バランス(概算)

■ 年会費収入 ■ 事業収入 ■ 委託費収入 ■ 寄付収入 ■ 助成金収入



総額

2015年度	5,110,636円
2016年度	7,005,337円
2017年度(見込み)	9,307,500円

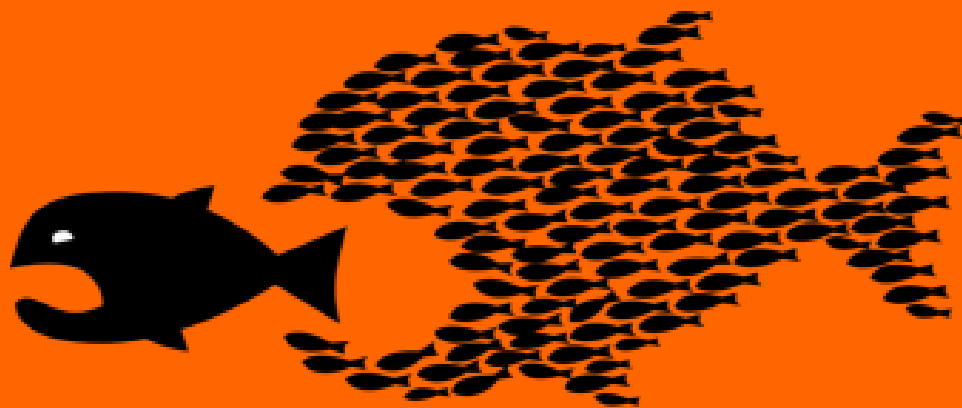
取り組みの工夫「人材育成」

- まんまるママいわてで取り入れたこと

Community Organizing
コミュニティ・オーガナイズィング



ORGANIZE!



まんまるママ岩手がCOに出会う前

- 「孤独に子育てする母親を助けてたい！」
→東北で震災直後から助産師など専門職によるサロン開催
- 「いつも母親が気楽に休めて助けを求めにこれる場所がほしい」
→産前産後ケア施設を作りたい

**産後ケア施設ってお金かかるし、人もいるし、
宝くじあたったらいねー**



2014年11月COスタート当時 4名のみで、活動の広がり不安

代表
みよこ

副代表
助産師
Aさん

副代表
助産師
Bさん

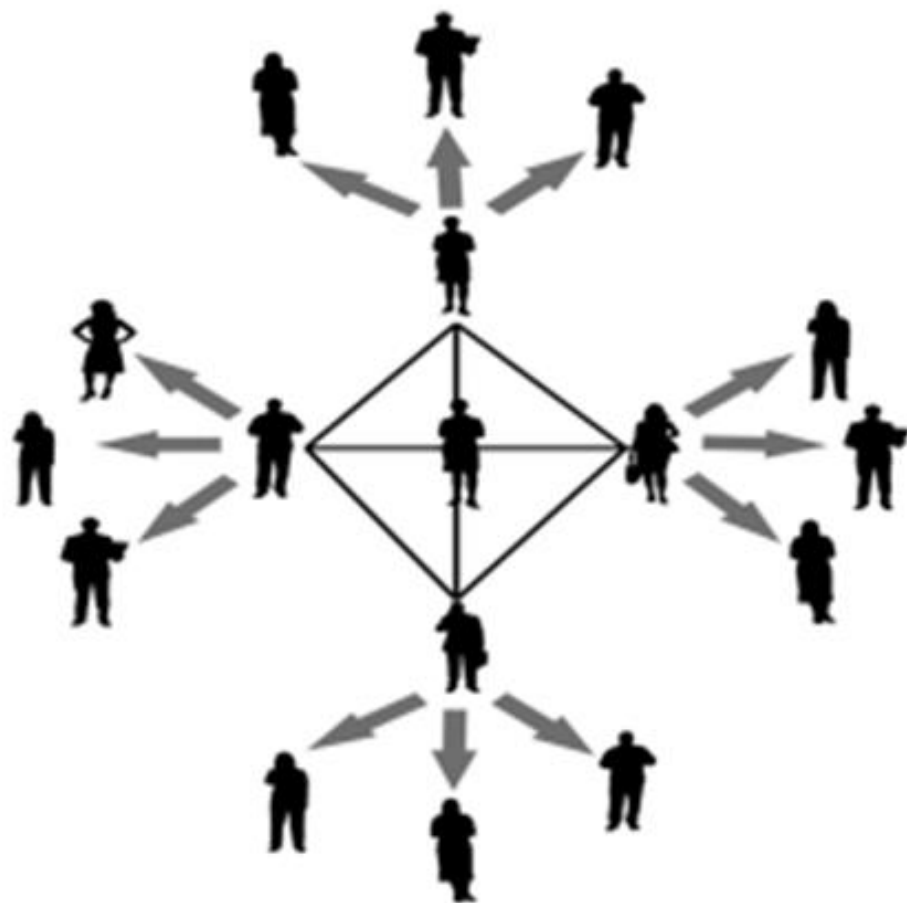
会計
栄養士
Cさん

コミュニティ・オーガナイズングとは (Community Organizing)



- 市民の力で自分たちの社会を変えていくための方法であり考え方です。
- オーガナイズングとは、人々と関係を作り、物語を語り立ち向かう勇気をえて、人々の資源をパワーに変える戦略をもってアクションを起こし、広がりのある組織を作りあげていくことで社会に変化を起こすことです。キング牧師による公民権運動、ガンジーによる独立運動、どれも数えきれないほど多くの人々が参加し、結束することで社会を変えてきました。
- そして、普通の市民が立ち上がり、それぞれが持っている力を結集して、コミュニティの力で社会の仕組みを変えていくのが、COです。市民主導で政府、企業などさまざまな関係者を巻き込みながら、自分たちのコミュニティを根本からよくすることを目指します。
- COは、「先行き不透明な状況の中、人々が目的を達成できるよう責任を引き受けるリーダーシップ」と言うこともできます。リーダーシップと言うと、カリスマ性のある限られた人にだけ与えられた特別なものと思われがちです。しかし、オーガナイズングでは、人は誰でもリーダーであると考えます。子どもの頃に何度も転びながら自転車の乗り方を覚えたように、行動を起こし、何度も失敗しながら学んでいくのです。

スノーブレイク・リーダーシップ！



Community Organizing JAPAN

コミュニティ・オーガニジング・ジャパン

広がっていく組織をどう作っていくのか

- 1 : 1 で関係構築
- 小さなチームを作っていく
- スノーフレーク
- 役員4名、運営チーム、産後ケアチーム、食育チームなど、会員の中から、自分の役割を新たに設定しながら、スノーフレークを作っていく

「オーガナイズング センテンス」

私たちは、

一人一人命を大事にする社会を成し遂げるために、

岩手県中部地域の産前産後の困難を抱えた経験を持つママをオーガナイズし、

ママの居場所作りをし産前産後ケアシステムを
考え研究することで、

2016年8月までに、1か月延べ32名が利用
できる産前産後ケア施設のスタートを達成します。

同志の強みを生かす戦略＝ママの語る力

2015年2月
議員さんとママの語る会

2016年6月
スタッフ勉強会

2016年7月
産後ケア研究

ママの持っている資源（リソース）の活用

被災したママ→建築系

ママ→アロマ資格あり

2015年7月総会終了後 1:1を続け
4名→8名

代表
みよこ

副代表
ママ
Dさん

副代表
助産師
Bさん

ヨガ事務
Hさん

会計
栄養士
Cさん

釜石ママ
Eさん

保健師
Fさん

助産師
ママ
Gさん



2015年12月チーム発足

助成金

代表
みよこ

副代表
ママ
Dさん

副代表
助産師
Bさん

保健師
Fさん

ヨガ事務
Hさん

助産師
ママ
Gさん

ママ
Iさん

産後ケアチーム

お菓子作り
チーム

釜石ママ
Eさん

会計
栄養士
Cさん

2016年立ち上げ予定 実際のチーム

産後ケアチーム

代表
みよこ

副代表
ママ
Dさん

副代表
助産師
Bさん

(仮)レシピ本チーム

保健師
Fさん

ヨガ事務
Hさん

ママ
Iさん

(仮) 陸前高田チーム

お菓子作り
チーム

釜石ママ
Eさん

会計
栄養士
Cさん

(仮) 釜石チーム

2016年度

- ・役員チーム
- ・運営チーム
- ・産後ケアチーム
- ・食育チーム
- ・大槌チーム
- ・釜石チーム
- ・遠野チーム

遠野チーム

ママ
ママ

ママ
ママ

産後ケアチーム

助産師
E子さん

副代表
ママ
Dさん

食事ス
タッフ
Mさん

副代表
助産師
Bさん

保健師
Fさん

代表
みよこ

ヨガ事務
Hさん

会計
栄養士
Cさん

ママ
Iさん

助産師
kさん

ママス
タッフ
Sさん

食育チーム

Mさん

ママt
さん

大槌チーム

ママt
さん

釜石チーム

「COに出会って、やった事」月1回2時間の会議

- | | |
|----------|--------------------------|
| 2014年11月 | 「関係構築」チームメンバーとの1on1 |
| 2014年12月 | 「チーム構築」ノーム決め・ビジョン・ミッション |
| 2015年1月 | 「チーム構築」役割分担 |
| 2015年2月 | 「戦略」同志はだれか？問題点は何か？ |
| 2015年3月 | 「来年度の事業計画立て」 |
| 2015年4月 | 役員1名の2か月活動休止。コアがあやふやになる |
| 2015年5月 | 「関係構築」新しいコアに対し、1オン1 |
| 2015年6月 | 「チーム構築」 |
| 2015年7月 | 「産後ケア計画発表～私のナラティブ～」 |
| 2015年8月 | 「関係者マッピング①」 |
| 2015年9月 | 「関係者マッピング②」「産後ケアチーム立ち上げ」 |
| 2015年10月 | 「戦略①」「5年後のイメージ図」 |
| 2015年11月 | 「戦略②」終了！1年かかって、一通り出来ました！ |

- 2015年12月 産後ケアチーム本格始動
- 2016年1月 産後ケアチームで「助成金申請①」
- 2016年2月 **キャンペーンピーク1 産後ケアシンポジウム50名参加**
- 2016年3月 産後ケア研究スタート
- 2016年4月 産後ケア「助成金申請②」チームリーダーの気持ち・・・
- 2016年5月 産後ケア研究で新しいメンバー入る
- 2016年6月 助成金獲得し、本格準備
- 2016年7月 産後ケアメンバーの気持ちバラバラのトラブル・研究終了
- 2016年8月 産後ケアチーム新生
- 2016年9月 産後ケアハウス最終準備
- 2016年10月 **産後ケアハウス「まんまるぽっと開設！」**
- 2016年11月 産後ケアチーム6名で切り盛り
- 2017年1月 4月以降体制準備 1：1開始
- 2017年2月 産後ケア講演会 55名参加
- 2017年3月 今年度チーム終了お祝い！！
- 2017年4月 **市の委託が決定！！**

産前産後ケアハウス
まんまるぽっと

スタッフ研修会

2011年9月 団体設立

産前産後パートナーシップ講座

産前産後ボディケア講座

まんまる親子ヨガ

活動地域
参加の居住地の拡大

まんまるキッチン

☆チームの増加
役員のみ→7チーム

まんまるサロン

参加者人数
会員数
連携団体
賛同してくれる仲間

WAM助成
開始

まんまる正会員増加
4名→22名→34名→36名

2011年9月

2012年

2013年

2014年

2015年

2016年

2017年

活動の広がり



宮古市では、まんまるサロンをきっかけに助産師が開業。
その後まんまるがつながっていた育児サークルが、開業助産師へ相談役を依頼。
地元で相談できる体制ができた。

陸前高田市では
ママフェスへ参加

釜石市では、2017年度より
市の後援事業へ。
食改協さんがお菓子づくりを担当。
市との協働が進んでいる。

皆様と共有したいポイント

- 皆様の同志はだれか？ → 一番困難な状況である当事者
- 自分がなぜこの活動をしているか？
(ストーリーオブセルフ) → 共感を生み、仲間を増やしていく。
自分の価値観を明らかにする。
- 今のチームメンバーと
定期的な1:1をしていく → 現在の課題や、お互いの価値観などを
今一度確認し、チームのために活動していく



ママが「幸せ」を受け取る
ママが「幸せ」だと子供が嬉しい
子どもが笑顔だと家族が「幸せ」
家族ごとが「幸せ」だと、地域が「幸せ」になる